

平成27年第3回川本町議会定例会会議録
(第2日目) 平成27年 9月16日 午前9時30分開議

議 長	<p>おはようございます。定刻となりましたので、ただいまより本会議を開催します。</p> <p>本日も皆様方には大変お忙しいところ、続いてご出席をいただき誠にありがとうございました。</p>
々	<p>ただいまの出席議員数は8名であります。定足数に達しておりますので、会議は成立しました。</p>
々	<p>それでは、ただちに本日の会議を開きます。本日の日程は、お手元に配布しているとおりです。</p>
々	<p>日程第1「一般質問」を行います。</p> <p>あらかじめ申し上げておきますが、質問者は通告されました質問につきまして、最初、壇上で質問をしていただき、再質問以降は質問席にてお願いします。</p> <p>そして、答弁者は、議長において指定した項目についてのみ、登壇のうえ、答弁をしていただきます。</p>
々	<p>更に、2回目以降の答弁は、自席においてお願い致します。</p>
々	<p>それでは、通告順に従い、順次質問を許します。</p>
々	<p>はじめに、石川議員の一般質問を行います。2番石川議員。</p>
2番 石川議員	<p>おはようございます。</p> <p>8月下旬より台風の影響で天候不順な日がずっと続いております。稲刈りの方も例年に比べ遅れを生じているような状況でございます。しかし米価は1等米、基準米で1体30キロあたり5,250円ということで、例年よりアップをしております。一安心をしているところでございます。いよいよスポーツ、行楽、また食欲の秋でございます。美味しい果物などしっかり食べてですね、秋を満喫していただきたいというふうに思っております。</p> <p>それでは、通告書に従いまして、一般質問をさせていただきます。</p> <p>次期、町長選について問うものであります。時の経つのは早いもので、三宅町政が誕生して3年8ヶ月が過ぎようとしております。崇高な理念と高い見識をもって町長選に出馬されたものというふうに推察をしております。</p> <p>そこで次の3項目について伺いたいと思います。</p>

2番
石川議員

まず、三宅町政の1期目の総括についてでございます。平成24年2月就任以来、約4年の任期があと5ヶ月後に訪れようとしております。就任直後から大変精力的に取り組まれておられ、様々な施策の対応の中で、私ども議会も是か非かということだけではなくて、町政を一層深く考える機会を与えていただいたというふうに今、感じております。また今日まで県庁はもとより国政機関、また東京、名古屋、大阪、広島事務所等々を駆け巡り、まさに東奔西走する中、自らの人脈とパイプを作り予算の獲得や事業執行に向けた、スピーディーな行政運営のリーダーシップをとってこられました。この事に対して、敬意を表し評価を致すところでございます。また職員には、朝礼と挨拶訓練を徹底し、町民の皆さんとの情報の共有・コミュニケーション・現場主義の3つの根底に持ち、「役場を川本町一のサービス業にするよう」指示され、来庁された町民の皆さんには明るい挨拶、親切な対応で役場の雰囲気随分と変わったように私は感じております。

そこで三宅町政の1期目を総括する形の中で、質問をさせていただきます。

町長就任以来、3年8ヶ月を振り返って、様々な施策を総括しながら、特に心に残る主なものは何であったか、また逆に、思うように進まなかった事業、今後はもちろん継続という形の中で進めていかれると思いますけれども、この点についてもお伺いを致します。

2点目、次でございますが、次期の出馬意志について、でございます。来年2月に町長としての任期を迎える訳であります。私は先ほど申し上げましたように、これまでの実績を評価を致している訳でございますが、本町の町政を今後どのように運営されるのか、次期、町長として町の指揮を執られるのかどうか、お聞きをするものでございます。

最後に、20年後の川本町のあるべき姿について、お伺いを致します。

現在、県も各市町村も45年後のあるべき姿、2060年を念頭におきました総合戦略を策定中でございます。川本町もいろいろと知恵を絞りながら頑張っておられますが、私は45年後というのは如何に考えても長すぎるといふふうに感じております。つまり、いくら美辞麗句を並べても45年後と言いますと誰も責任を持って、責任を持てる人がいないという事であります。子どもの成長にしても、ひとつの会社の発展にしても、私は20年、一区切りというふうに考えております。川本町のあるべき姿について、お示しをいただきたいというふうに思います。以上、3項目につきまして、質問を致します。

議長

石川議員の質問の「時期町長選について問う」に対する、答弁をお願い致します。番外三宅町長。

番外
三宅町長

石川議員のご質問にお答え致します。私が町長に就任させていただいてから、早くも3年8ヶ月が経過致しました。就任までは、このJA農政一筋でございまして、様々な面で迷ったり、又、この未熟さを露呈するような場面

番外
三宅町長

があったかと存じます。先ほどは石川議員から、この実績について評価のお言葉をいただきましたが、私一人で出来たものではございません。議員の皆さん、そして町民の皆さん、そして職員の皆さんの力強いご支援があったからでございまして、改めて心から感謝する次第でございまして。私は「一人は万人のために、万人は一人のため」という協同精神・相互扶助の精神を持ち、川本に住んで良かったと実感できる町づくりという大きなテーマを持っております。そして情報の共有、コミュニケーション、実戦主義、これを根底におきながら向こう10ヶ年で取り組む、つながりとぬくもりの中で豊かに暮らす町づくりを進めて参ったところでございまして。言葉を換えますと、目指す町は協同精神を根底に持ち、小さな町の強みを発揮して、安全安心で活力のある町、住んでみたい町、住んで良かったと、そういう町であります。ちょっと抽象的でございますが、心から思う言葉でございます。運営にあたりましては財政の状況を見ながら経常支出の見直しを諮りつつ、子育て支援や教育、生活環境、医療福祉、地域交通、産業振興など、あらゆる分野において全て町民の皆さまの暮らしの満足度、これを高めることを目指して取り組んでまいった次第でございまして。そして、行政の意識と発想の転換を図り、一歩でも半歩でも前進する事を考えておりました。また役場は本町で一番進んだサービス業でなければならないという思いの中、数字目標を常に意識しながら、民間の風を入れスピード感と総合力を持って仕事に邁進して参りました。私はこの任期中、そうした町、役場を作っていきたいと常に考えておりました。町長就任と同時に第5次総合計画がスタート致しまして、将来を見据え、限られた予算の中で選択と集中で種を蒔いて、少しずつ芽が出てきていると感じております。行政というものは「これで良い」という事はありません。いつも、その時その時に問題を抱え、常に前を向いて進んでいくものであると考えております。さて、この4年間の中で、特に、どの事業という事でございまして、町民のニーズというものは山ほどあり、心に残っているものばかりであります。町民の皆さまとの意見交換会では、安全な町を目指してほしいとか、安心な町を目指してほしいと、こうした直接的な言葉は出てきませんが、意見を集約しますと総花的そうぼなてきでございまして、安全安心で活力のある町ということになって参ります。

安全な町とは、どんな町か、通学路の安全が保たれている、或いは道路環境、或いは防犯カメラ、街灯の設置、或いは防災の強化が図られている、いろいろございまして。積年の江の川治水事業につきましては、今、新たな動きが出ております。これにつきましては早期実現を目指して、全力で国に働き掛けて参ります。

安心とは、子どもが安心して育てられる、或いは病院が在るといふ、医療福祉の充実であります。子育て支援では第2子以降の保育料の無料化、或いは中学生までの医療の軽減拡大、保育所の完全給食の実施、並びに小中一貫教育に向かったの検討を進めて参りました。医療では、加藤病院仁寿会を中心とした医療・介護・看護が一括して受けられる地域包括支援システムの構

番外
三宅町長

築を図ってきたところでございます。ドクターカーによる循環診察も始まり、また、お年寄りの皆さんはデマンドカー・デマンドタクシーによりまして、これを有効に活用いただき、町まで買い物等に出掛けていただいております。活力では、産業の活性化でございます。特産のエゴマの振興にも力を入れてきましたが、まだまだ道半ばでございます。企業誘致にも力を入れて参りました。また、島根中央高校の活躍も、本町の活性化に繋がって参りました。こうした中、三原地区の皆さまによる自分達で地域を作るという発想、これが至る所で始まりまして、川本の再生を町民の皆さま自身が自分達がやるんだという、そうした気概を持って取り組んでいただいていることを本当に嬉しく思っております。こうして様々な大きな課題が押し寄せてきております。人口問題、産業振興、高齢者対策、教育の問題、道路整備、社会資本の整備、目白押しでございます。今、私は1期4年の反省にたちながら、それぞれの分野に蒔いた種をどのように育て、大きな花を咲かせていくことが私に課せられた課題であると前向きに考えているところであります。

次に、20年後の川本町のあるべき姿でございます。ご案内のとおり平成に入りましてIT改革により、世の中が随分と変化しております。これからまた20年先の世の中を予測する事は極めて難しいものではありませんが、人間の満足度や幸福感を求める人たちの目が、これから農村に向けられ、農村生活の価値が再発見されていくと考えております。20年後は、田舎が輝いております。人口ビジョンによりますと、本町の20年先、2035年の人口は2,700人、高齢化率は下がりまして38%となっております。人口が減少していくと、この事は確実でございます。効率的な行政を進めていくため旧小学校単位でのコンパクトシティを着々と進めていくことが重要であると考えております。今、策定中の地方創生総合戦略、そして第5次総合計画も終わりました、その時には第6次総合計画に入っております。人口は減ったが活力のある、住んでみたい町になっていくことを願って選択と集中の中で不退転の決意で立ち向かっていかなければなりません。これから地方交付税をはじめ各種財源が減額される事があっても増えるような可能性は低く、私の頭の中では、やはり経済を循環させ地域に活力・元気をもたせ自立できる自治体を目指して、自信と誇りを持って農・商・工・官が連携し、外貨の獲得に取り組んでいるような町を目指していきたいというふうに考えております。そして20年先になりますと、世界の人口はこれからどんどんと増え、食糧難になっているかも分かりません。そうした中においても川本町の水田農業はきちんと守られ、町民の命が守られている事を願っております。農業は生命産業であります。これからもしっかりと守っていききたいと考えております。これから20年先の、この時代の変容というところをしっかりと見据えながら、この地方創生元年、新たなスタートを切りたいというふうに考えております。以上、石川議員のお答えとさせていただきます。

議 長

再質問ありますか。2番石川議員。

2番
石川議員

それではここで少し具体的な総括について、お伺いさせていただきます。ここに4年前の選挙公約を持って参りました。いろいろと夢と希望が詰まっておりますが、街頭演説第一声で、町民の皆さまに訴えられた4点について、お伺いを致します。

まず、1点目でございますが、このように述べられております。

医療福祉の充実を図る中で、集約自治会を基礎としたお年寄りが最後まで元気で安心して暮らせるシステムの構築という事を言われた訳ですけれども、具体的にこの事について、お伺い致します。

議 長

番外三宅町長。

番外
三宅町長

川本町のような小さな町におきまして、その特徴としましては、やはりこの一人一人の存在感というものが大きい。そしてまた、地域の中での繋がりが強いという訳でございます。今でも目に見えない地域の中での助け合いと申しまししょうか、共生活動が展開されております。そうした中におきまして、この地域のお年寄りが一堂に会する場も度々、設けられております。その1つが先ずは食改が食生活の改善事業で食育指導がされます。また社協が行っておりますミニサービスデイ云々等も行っていると。また地域婦人会の方が心温まる訪問活動も展開されている。そして今、防災にも力を入れておりますが、防災でみんなが助け合っていこうという気分が高まって、助け合いの精神が浸透しているところでございます。まさに先ほど申しました一人は万人のために万人は一人のためという、そういう精神が醸成されてきているというふうに考えております。そうした中にありまして、私が考えるのは今地域包括ケアシステムが構築されつつございますが、その中にこうした住民主体のこの活動というものも組み入れてやると本当の地域の中で助け合っていこうというシステムが構築されるというふうに考えておりまして、そういうところまで持っていきたいなというふうに考えております。それから高齢者の方につきましては、特にこれから24時間介護・医療・看護というものを安心して受けられるような事、効率的に受けってもらうためにはやはり高齢者の集合住宅というものを検討していかなければなりません。これも任期中いろいろ検討したところでございます。今回、公営住宅の寿命化計画を見直す中で、そうした高齢者住宅の建設という事もこれから検討していきたいというふうに考えております。

議 長

再質問ありますか。2番石川議員。

2番
石川議員

次、2点目でございますが、冒頭ちょっと触れていただきましたけれども、人口問題です。人口減少の歯止め策であります定住対策と産業の振興というふうに訴えられている訳ですけれども、この点についての総括をお願い致します。

議 長

番外三宅町長。

番外
三宅町長

昨年度の人口の増減を見ますと、生まれた子どもの数が21名、亡くなられた方が78名となっております。そして社会減が40名という事で96名の減少という事であります。こう見ますとやはり、20代・30代の方が定住していただけるような施策をしっかりと打ち立てる事が重要でございます。この人口対策につきましては、今ありましたような医療の関係、子育て支援、住環境の整備、教育、雇用、そうした総合的なところから充実を図っていかねばなりません。そうした中で、今、本町が進めております定住住宅につきましては、本当に若者から大きな支持をいただいております。これにつきましては、これも増築を続けて参りたいというふうに考えております。そして雇用の場の確保でございますが、これもしっかりと取り組んで参る訳でございますが、特に企業誘致につきましても、これから一層力を入れていきたいというふうに考えております。

議 長

再質問ありますか。2番石川議員。

2番
石川議員

次に、財政健全化について、お伺いしておきます。本年度の一般会計予算につきましては、庁舎移転事業、デジタル防災無線整備事業、悠邑ふるさと会館改修事業等々の取り組みで、総額54億9,011万1千円と前年度比約1.5倍の増額予算が組まれました。また、近年、当初予算規模は年々増加傾向となっております。これは学校給食センター建設事業、定住促進住宅建設整備事業、公的病院等支援費補助事業等、安全・安心、住みやすいまちづくりの実現のため、厳しい財政状況下においても、必要な事業であると判断された結果であろうというふうに思っております。しかしながら、一方では、平成27年度地方債残高が47億797万6千円と前年度比約1.4倍の見込みであり、高齢化。人口減少等により、今後の税収も減少が見込まれる状況の中、まちの将来を考えると不安を覚えるところでございます。地方債残高が、これ以上増加しない、健全な財政運営に向けた取り組みも重要と考えております。財政規律という観点から、今後、将来に向けた健全な財政運営の取り組みをどのように考えておられるのか、町長のお考えを伺います。

議 長

番外三宅町長。

番外
三宅町長

27年度予算は前年度と比較して1.5倍になっております。この主な要因は、やはり庁舎移転、それとデジタル無線を設けるという事で、この2つだけで13億を超える事業でございます。これは次世代の方にも受益いただくという事業でございます。こうした中、今ありましたようにこの事業の財源でございますが、その為に9億ちょっとの地方債の借入れを行います。それによりまして残高が、今、議員が仰いました44億ですか、私の数字で

番外
三宅町長

は44億8千万というふうに把握しておりますが、それに膨れる訳でございます。それでこの償還が始まるのが30年からでございますが、31年の実質公債費比率を計算してみますと、8.2%という事でございます。今の起債の中味というのは過疎債と辺地債が主でございます。これにつきましてはこの交付税で措置されております。とは言っても借入金でございますので、この残高管理というのはしっかりとこれからも行って参ります。そして全体の財政運営につきましては、この健全化の数値をいつも睨みながら適正な財政運営にこれからも努めていきたいというふうに考えております。

議 長

再質問ありますか。2番石川議員。

2番
石川議員

いずれにしてもですね、財政が硬直化しているという点では認識が一致しているというふうに考えております。どうか、健全な財政運営に邁進されませうよう期待をしておきます。

次に、最後にですね、小中一貫校について、これも公約で述べられておりますので、お聞きをしておきます。一昨年ですか、高知県の構原町の方へ議員と関係の職員で研修に参りました。先進的な取り組みをされておられまして、非常に感銘を受けた訳でございますけれども、その後、動きがないという事でございます。当然、学校サイドのご意見等々が重要になる訳ですけれども、やはりここはですね、政治主導で先ずやるという方向を示していかないと前へ進んで参りません。その辺のお考えについてお聞きをしておきます。

議 長

番外三宅町長。

番外
三宅町長

この小中一貫教育の関係でございますが、来年の4月から今の小学校6年、中学校3年と、こういう課程を各地域の状況に合わせて変えていくと、3・3・3とか、また違った学校で各地域の判断で出来ますよという事になった訳でございます。今この戦略を策定する中で学びという事を1つのテーマにしております。本町は小学校1校、中学校1校という特色のある環境でございます。そういう事でございます。この特色を活かして魅力ある小中一貫教育について、この4年間出来るようにハード面ソフト面において検討を進めてきたところでございます。そうした事で文部科学省の方からもそうした事で各地域が自由に出来るようになったという、この後押しがありました。従いましてこれからこの総合教育会議等において、この教育委員の皆さまにも私の考えを言う中で、子供のための視点に立って小中一貫教育が実現できるようこれからもスピード化を図っていきたいというふうに考えております。

議 長

再質問ありますか。2番石川議員。

2番
石川議員

それではここですね、皆さんも最も関心の高い、もう一度、出馬意志についてですね、お伺いしておきます。先ほど冒頭で前向きにと言うふうを考えておられるというふうに感じさせていただいた訳でございますが、最近の一般的な傾向でございますけれども、あらゆる選挙の立候補者の表明が遅くなってきているというふうに感じております。当然に選挙には勝ち負けが伴いますので、戦術的な面もあるかも知れません。しかし現職までもがなかなか表明をしないという事がありますが、私は選挙の活性化、選挙の活発化、選挙の透明性、こういう観点からこれはマイナス要因であるというふうに感じております。意思表示を明確に行っていただきたいというふうに思っておりますけれども、如何でしょうか。

議 長

番外三宅町長。

番外
三宅町長

私と致しましては、今こうして地方創生が始まったところでございます。また私が目指す町政運営にはまだまだ道半ばというところでございます。町民の皆様のご支援があるならば4年前の初心に帰りまして町政を担当させていただきまして、これからの将来に向かっての課題に果敢に挑戦し、そしてこの全身全霊でトップセールスを行いながら、また職員と一丸となって町民の皆さまと一緒に安全安心で活力のある町づくりを進めたいと考えております。そういう事で次期町長選については、挑戦したいという考えをここに明確に表明させていただきます。どうか、議員の皆さん、町民の皆さまにおかれましては、より一層これからご支援ご協力をお願い申し上げる次第でございます。以上でございます。

議 長

再質問ありますか。はい、2番石川議員。

2番
石川議員

ただいま町長より来期に向けた力強い決意表明をしていただきました。どうか頑張って挑戦をしていただきたいというふうに思っております。ただ、町民の皆さんの支援という事でございますが、議員も町民お一人お一人もですね、皆立ち位置が違う訳です。障害の親御さんを介護されている方は、障害者福祉の充実を求められております。また教育熱心なお父さんお母さんは灘高校や広島学院高校に入れるような義務教育をして欲しいというふうに思っておられる方もいらっしゃると思います。また3反の水田を耕作されている方は、せめて堆肥助成ぐらいはして欲しいというふうに思っておられる方もいらっしゃると思います。また会社を経営されている方は従業員と共に、この地で会社が持続可能な発展を遂げられるような事を願っておられると思います。要はですね、町長が何をやりたいのか、どのような町を作りたいか、この事に私は懸かっていると思います。どうかその事を胸において、しっかりと頑張っていただきたいとエールを贈っておきます。

最後に、もう4点ほど私は重点施策と思っている事がございますので、担

2番 石川議員	<p>当課長を含めましてお聞きをしておきます。</p> <p>まず、長田健康福祉課長にお伺いを致します。町長も先程来出ておりますけれどもお話をされておりますけれども、地域包括支援事業でございます。町長よりどのような指示を受けて、どのような動きがあるのか。なかなか町民の皆さんは理解が薄いと私も感じております。丁寧な説明をひとつお願いをしたいと思います。</p>
議 長	<p>番外長田健康福祉課長。</p>
番外長田健 康福祉課長	<p>地域包括支援システムづくりという事でございます。先ほどの町長の答弁の中にもありましたように、お一人、住民の方お一人お一人が住み慣れた地域で最後まで安心して生活をしていけるシステム作りという事を目指していきたいというふうに考えております。それにあたりましては、様々な機関が連携をしながら、例えば役場でありますと地域包括支援センター、それから医療機関、介護保険の事業所、それから社会福祉協議会、民生児童委員さん、それから自治会であるとか、老人会であるとか、あらゆる地域の資源を活用しながら、その人の生活を支援をしていくようなシステム作りを目指していきたいと思っております。</p>
議 長	<p>再質問ありますか。2番石川議員。</p>
2番 石川議員	<p>次に、教育課長にお伺いを致します。今年の春でしたか、全国一斉の学力テストが実施されております。島根県は、どの教科も40数番という結果だったというふうに聞いておりますが、川本町の生徒さんもですね、どの程度というふうに推測をしております。今後ですね、定住対策の1つのキーワードとして学力向上という事が話題に上ってくると思います。移住されて来られる親御さんもですね、やはり教育熱心なところへ自分の教育熱心なところで子育てをしたいというふうに考えていらっしゃるというふうに思いますけれども、川本町の義務教育、どのような特徴を持って、どのような教育をされているのか今一度お聞かせいただきたいと思っております。</p>
議 長	<p>番外湯浅教育課長。</p>
番外湯浅教 育課長	<p>学力向上についてのご質問にお答えしたいと思います。学力向上につきまして一つの指標としまして、先ほどありました全国学力学習状況調査があります。これは国、公立、私立の小学校6年、中学校3年生の全児童生徒を対象にして実施されております。8月下旬に、その結果が公表されました。その結果によりますと、島根県全体の結果としては、全国平均を下回っている科目が多かったという事で、過去最低であったというような報道がされたところです。川本町につきましては、結果の公表をしておりませんので、詳し</p>

番外湯浅教育課長 　く申し上げる事は出来ませんが、何れの教科も平均は上回っているという状況でございました。そして学力の維持向上についての対策でございます。これは本年2月に策定しました川本町教育振興基本計画の施策のうち「学校教育の充実」の項目に基づき、支援を行っていきたいと思っております。学力の向上につきましては、学校の教育のみならず、家庭環境ですとか、経済的要因、生活習慣、そういった事が公的に絡まってくる問題でございますが、教育委員会の施策として学校に対する支援について、ここで説明をさせていただきたいと思えます。一つとしましては町独自で非常勤の学習支援員などの採用、或いは県が非常勤講師を配置していただく事業を活用致しまして、複数の教員が役割を分担しまして協力し合いながら指導する事や、個別指導、或いは学習に困難を感じる生徒・児童に対してきめ細かい指導で学力の定着を図っているところでございます。教育環境の整備と致しましては、電子黒板・タブレット端末などICT（情報通信技術）教育に対応した教育機器の導入など環境を整備してきたところでございます。今後は教員がそれらを使った効果的な授業に資するような校内研修ですとかの支援を検討して参りたいと思えます。町独自の学習支援でございますが、平成24年度から取り組んでおります。これは小学校に加えまして、平成26年度から中学校にも配置をしているところでございまして、学力向上を図っているところでございます。今後も小学校、中学校と協議しながら事業を継続して参りたいと思えます。以上のような取り組みを今後も推進し、生徒・児童の学力向上を図っていかうというふうに考えております。

議　長 　　　　　再質問ありますか。2番石川議員。

2番石川議員 　　　次に、農業関連でございますが、産業振興課長にお伺いを致します。農業法人、町内には3法人あるわけですけれども、私も前職の時に設立に係わった経緯がございますけれども、大変な役割を農業法人さんに於かれましては背負っていただいているところでございます。個人で水田をやっている場合は、やはりその家の方が止められるという事になりますと、田畑は全て荒れていきます。しかし法人でやられておりますと、その辺のカバーがきちりとやっていただけるという事で、なかなか経営的にも苦しいという事も聞いておりますけれども、非常に川本町の中で3つの法人に対しましては良くやっていただいているというふうには評価しておりますけれども、役場としてどのような関わりを持っていかれるのか、どういう支援をしていかれるのかお伺いをおきます。

議　長 　　　　　番外高良産業振興課長。

番外高良産業振興課長 　失礼致します。ご質問いただきました農業関連、特に農業法人についてお答えしたいと思います。世界の動きの中では人口爆発ですとか食糧難等とい

番外高良産
業振興課長

った中であっても、こういう中山間地域においては農業者の方の高齢化、それから担い手の不足、耕作放棄地の増加など、そういった中で自分達の暮らしですね、将来どういった展望を描いていけば良いのかという対策が待たなしの状況にあるというふうに捉えております。ご承知のとおり、現在、三原地区には、3つの法人化されました集落営農組織、所謂「農事組合法人」があります。27年産米の実績で現状を申しますと、本町全体の水稻作付け面積は約162haとなっております。このうち約2割を、この3つの法人で担っていただいている現状にあります。また、特に今年度は、兼業就農支援する制度「半農半X」といった支援事業の、こういった実践者の方に対して、研修の受け皿になっていただいている法人もあります。日夜、農地を荒らしてはいけないという思いの中、農業ですとか暮らし、地域を守っていこうとされる姿には、たいへん頭が下がる思いであります。しかし農産物の価格の下落は農家を直撃しております。これは、地域と農業を守る切り札とも言える法人にも同じ事が言えると思っております。本町の総合戦略素案に掲げます基本施策の1つ「雇用」には、農業の担い手確保、それから評価指標の中には農業法人等への就業者の数というものを明記しております。現在、法人の方々と直面している課題について話し合いを進めているところでありますが、今後も引き続き、将来展望を描きながら、担い手の確保や育成・農地・販路の展開・設備投資や助成など、どのような支援策やあり方が今後も必要になっていくのか、引き続き話し合いを重ねながら具現化に向け、取り組んでいきたいと思っております。以上でございます。

議 長

再質問ありますか。2番石川議員。

2番
石川議員

最後にですね、畜産振興について、町長にお伺いをしておきます。町長ご存知のようにですね、川本町は嘗て養蚕業で非常に栄えました。それも昭和50年代の半ばだったと思いますけれども、農家数はゼロになりました。牛につきましても肥育農家、または酪農ですね、乳牛の農家はゼロでございます。今、あるのは繁殖牛10戸が残っているという事でございますが、私はやはり、農業において畜産業というのは文化だというふうに思っております。非常になかなか牛を置いて外へへも出られない、いろんな制約がある中で、本当によくやっただいていただいているというふうに捉えておりますけれども、町長として畜産振興について、どのようにお考えを持っておられるのか、お聞きをしたいと思います。

議 長

番外三宅町長。

番外
三宅町長

今ございましたように、この邑智郡は畜産王国でありました。今、県の中央家畜市場に出る入場する牛は1回あたり250頭から300頭でございますが、そのぐらいのものが川本の市場には出ていたという事を聞いておりま

番外
三宅町長

すが、今日、町内での畜産農家10戸、親牛繁殖牛が70何頭だと思うのですが、昨年、出荷された頭数が50頭という事でございます。ここ2年子牛価格が上がっておりまして、平均販売価格が60万ちょっとで動いております。こういう中でありまして、飼料価格も上がっておりまして、畜産系というのは非常に厳しい状況であります。こうした中にありまして、この生産農家60歳代の方が本当に頑張ってくださいしております。また、これから川本に帰ってこの畜産経営をしたいというような青年も出ておりまして、たいへん楽しみにしております。これからこの畜産の復活を図っていくには増頭の確保でございますが、この例えばキャトルステーションという、もう出産すると子牛を直ぐ親から離すというところ、これはJAと一緒にあって設置しなければなりません、そういう施設のもの、或いは遊休農地を使つての放牧、三瓶等で既に数年前から為されてます。こういうものも町内で考えていく必要があるというふうに考えておりまして、いろんな面でJAと連携を取りながら畜産農家を支援していきたいというふうに考えております。

議長

再質問ありますか。2番石川議員。
石川議員に言うておきます。残り時間、10分です。
〔OKです〕の声あり
はい。

2番
石川議員

いろいろとお考えを、お聞かせをいただきました。また町長選につきましては、力強い決意表明をお聞きを致しました。私、冒頭に申し上げましたように崇高な理念と高い見識を持って、町長選に堂々と臨まれる事を期待致しまして、私の質問を終わらせていただきます。

議長

以上で、「次期町長選について問う」の質問を終了します。

々

これをもちまして、石川議員の一般質問を終了します。

々

ここで、10時35分まで休憩を取ります。 (午前10時23分)